

持続可能な 未来を目指して

- 横浜市の廃棄物分野での国際技術協力 -



横浜市

横浜市の廃棄物管理

横浜市は、市民・事業者・行政の協働のもと、分別・リサイクルによるごみの減量に取り組み、なお残るごみの適正処理を進めてきました。廃棄物分野の取組を通じて、環境・経済・社会の課題解決を図り、将来世代に良好な環境を引き継いでいくことを目指しています。

取組
1



市民・事業者との協働

家庭で行われる、
10分別15品目の排出源分別
事業者のごみ削減の取組

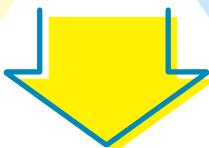


取組
2



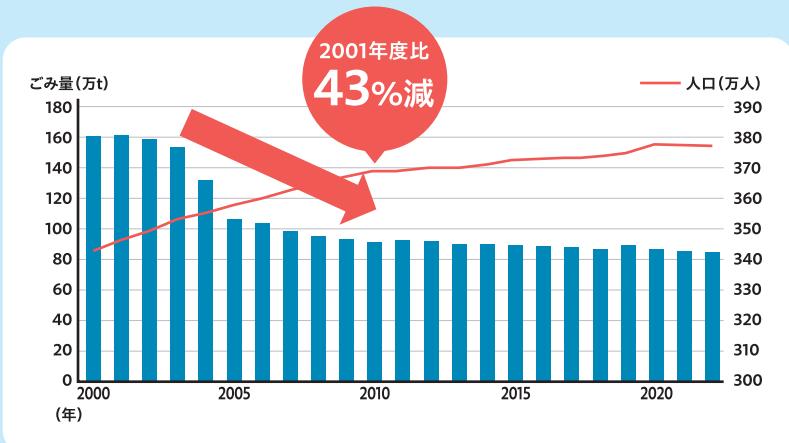
ごみの適正処理の推進

安定した収集・運搬・処理・処分
啓発活動と環境教育
着実な廃棄物処理施設の整備



＼2つの取組を行ったことで／

- ごみ減量による最終処分場の延命化
- 焼却工場の休止・廃止
- 環境に配慮したライフスタイルやビジネスモデルへの転換



横浜市が培ってきた経験やノウハウを活かし、海外諸国・都市の課題解決に資する国際技術協力を進めています。



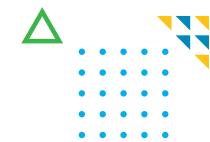
アフリカ諸国・都市への支援

横浜市は JICA や民間事業者と連携し、アフリカ諸国・都市の行政関係者に対し、アフリカの廃棄物管理向上に向けた研修を実施しています。



ノウハウを伝える

廃棄物処理や資源循環にかかる法体系、横浜市のー連の廃棄物処理の流れ、市民・事業者との協働など、横浜の廃棄物管理のノウハウを習得します。



市民啓発の手法を体験



処理施設のリアルを伝える

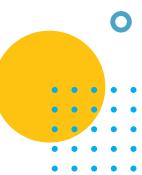
廃棄物処理施設を運営するには、周辺の環境に影響を与えないよう万全な配慮が必要です。研修員は自分の目で、どのように適正処理がされているか見て、習得します。



資源選別施設



焼却工場



アフリカのきれいな街プラットフォーム(ACCP)

アフリカの国々がきれいな街と健康な暮らしを実現することを目指して、廃棄物管理に関する知見の共有とSDGsを促進するためのプラットフォームです。横浜市はこれまでの廃棄物管理の知見や先進的な技術が評価され、本邦研修の拠点となっています。



自国のこれからを ともに考える

研修員は自国の廃棄物管理の問題を分析し、改善を図るためにアクションプランを作成し、発表します。帰国後に研修員がアクションプランに取り組むことが、この研修が目指す成果です。

横浜市職員と
ともに意見交換



問題分析を
サポート



アクション
プラン発表



帰国後のエピソード

繁華街でごみがみだりに捨てられていることが課題でした。
横浜での研修で、市民が出しやすい適切な場所に集積場所を置くこと、
市民の皆様に分別を協力してもらうことの大切さを学びました。
帰国して分別ができる集積場所を設置しました。



Before



After



Y-PORT事業を通じた支援

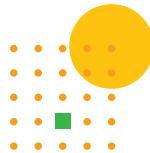
Y-PORT事業とは、横浜の資源・技術を活用した公民連携による国際技術協力です。

横浜市は、Y-PORT連携都市とともに、海外都市の抱える都市課題解決に向けた取組を進めています。

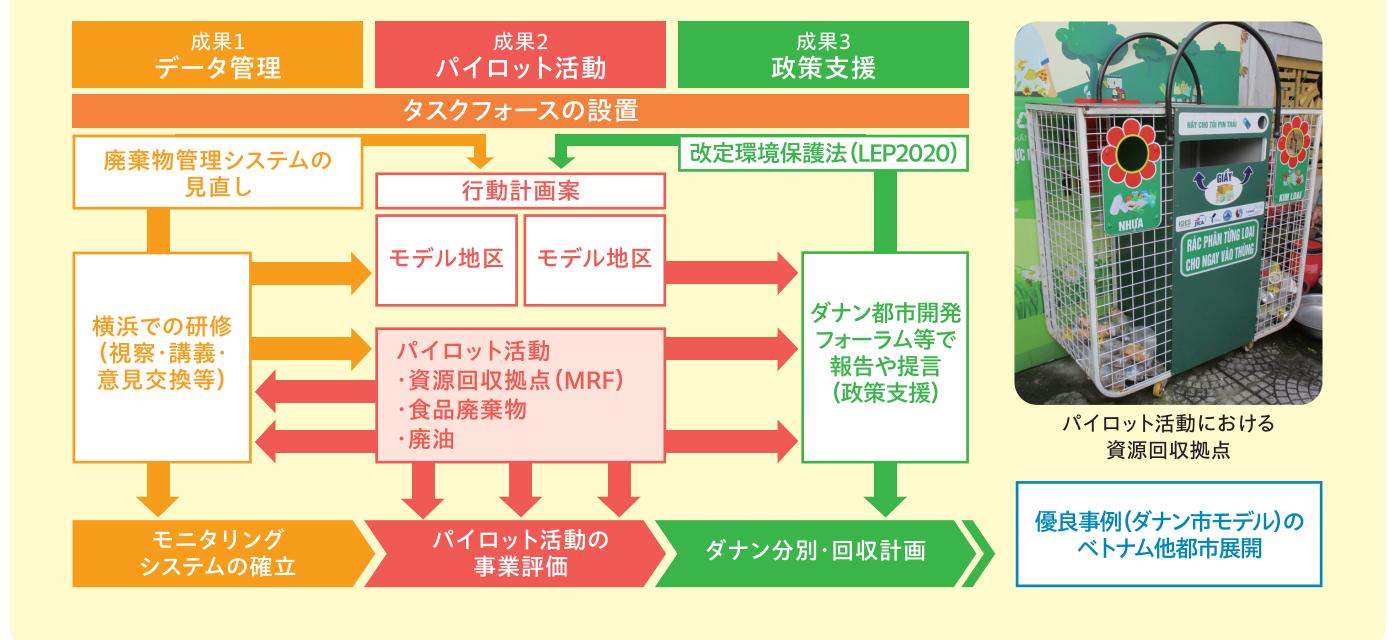


ダナン市への支援

JICA草の根技術協力事業として、ごみの分別・リサイクル業務などに関する横浜市のノウハウ・経験を共有することで、ベトナム国ダナン市を支援しています。



ダナン市におけるJICA草の根技術協力事業





海外からの視察の受入れ

横浜市の焼却工場など廃棄物処理施設等で、
世界中の国や都市からの視察の受入れを行っています。



資源選別施設の視察



焼却工場の視察

缶・びん・ペットボトルなどの資源物をリサイクルするための選別技術や、
分別してもなお残るごみの焼却処理技術を学び、廃棄物処理の知見を深めます。



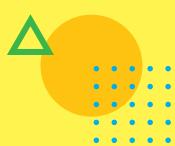
最終処分場の視察

廃棄物最終処分場を適切に維持管理する技術について知見を深めます。



市民啓発施設の視察

ごみの分別の大切さを伝えるため、横浜市が培ってきた市民啓発の手法について理解を深めます。



横浜市資源循環局政策調整課

〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 TEL : 045-671-2503 FAX : 045-550-4239
E-mail : sj-wastemanagement@city.yokohama.jp

お問い合わせ



横浜市HP(日)

横浜市HP(英)